

噴煙

市川茂子

閉ざしたる部屋に音なく寒気入る三連休とう周り静寂

一嵐すぎてようやく思い立ち春の白雲見つつ出でゆく

終日の雨に花ばな色冴えて櫛したえの下枝に朱き実残る

雨後の蘇りくる春景色新元号のまなく始る

変りゆく新たな時代こもごと山の一つに噴煙上がる

去年の種落ちたる庭のそこに薄紫のオダマキ咲けり

家裏に生えし雑草の小さき花そのままにしてしばらくは見る

手に余る雑用ありてぼうぼうとなりたる庭の今日は草取り

満開の桜のなかに溺れゆく無為にし己れ幻にして

何となく心にかかる不安あり散歩のときは転ばぬように